

<項目別>

1. 地域共創・三者連携への期待

住民、自治体、西鉄という民間企業の三者が共創して生まれる「まち」や空間になってほしいと感じました。住民の思いやコンポスト等、香住ヶ丘ならではの取り組み、西鉄の様々なノウハウがうまく融合した「まち」こそが持続可能な「まち」なのではないかと考えました。次回、可能であれば、市や西鉄の方にも来ていただき、互いの思いを共有し合うとより良くなるのではないかと思います。（大学生）

今回は「共生」について、地域の人と共に、オープンな場所であるべきではないかと考えました。「学校+サッカー場」、ここにオープンな地域の人に愛される土地活用としてほしいと思います。（男性・30代）

かしいかえん跡地を地域の人たちが交流できる場にしたらよいとの話がありました。香住ヶ丘まちづくり協議会をつくり、地域の代表と住民が長期にわたり意見交換できる場があるといいと思いました。そして行政と企業と対等に話ができるコミュニティにつなげると良いと思います。小学校と中学校をつくるのはよいのですが、周辺が高齢化しているので、小中学校と共通化し、人が減ったら福祉施設として利用できるユニット型建物（公共施設）をつくるとよいと思います（コミュニティガーデンも含んだ施設）。（男性・60代）

多くの人が集まり活発な意見が出て良かった。新しい出会いがあった。西鉄側との交渉次第だと思います。（70代以上）

2. 循環・コンポスト・Community Garden

斉藤さんのお話にあった「顔の見える地図」やたいらさんのコミュニティガーデン、また私自身が観光ツアーづくりをされている方からお話を伺った際に、地域の知り合いをつくることでその場をより好きになれるとおっしゃっていたことから、人々が集える場所だけでなく、会いたくなるような人とも出会える場所になるとよいなと思いました。コンポストは持続的に関われそうです。また、校区の方から生徒が多い問題の生の声を聞き、私が過ごした10年前とも

全然状況が違い、人口に合った開発をしていく必要がありそうだと考えました。（女性・大学生）

斉藤さんの話からは持続性あるまちづくり、コミュニティとしてのまちづくりについて知ることができました。たいらさんからはCommunity Gardenが香住ヶ丘にあることを知らず、私たちにとっては衝撃でした。環境の循環とコミュニティづくりの両方ができ、かつ子どもの成長にとっての自然環境づくりは大変有益だと思いました。（女性・60代）

循環型コミュニティガーデンを香椎花園の前にできることは大変喜ばしいことです。これが校区の中に広がればよいと思います。この作物を使ってクラブトビールができれば一番です。自然と環境の調和が一番ですね。（男性・70代以上）

キーワードが循環でした。人の循環、記憶の循環、土地の循環。跡地の活用に循環の仕組みを具体化できないかと思いました。香住ヶ丘高校の参加者がすごい。一つのチームで何かやれないかなと思います。（70代以上）

Community Gardenについてよく分かりました。町内会等の組織化が難しい状況の中で、このような施設が運営されることは重要かと思います。香椎花園跡地は小中学校建設が望ましい。将来子ども数が減少してもCommunityとして活用・利用されることを考慮してほしいと思います。（男性・70代以上）

斎藤さんと平さんのお話や皆さんとの交流を通して、たくさん気づきがありました。循環や人とのつながりを地域と香椎花園跡地とこのコミュニティで進めていけたらいいなと強く思いました。（男性・30代）

### 3. 多世代が集える場・交流空間への願い

社会を循環させていくことが、地域をよりよいものにつなげていくということに気づけました。また、かしいかえん跡地というすごく大きな場所を、現在の学校などの教育的な問題や地域の方々とのふれあいの場として活用していくことで、香住ヶ丘をよいものにしていこうという話し合いができ、すごくいい時間を過ごせました。（女性・高校生）

かしいかえん跡地にはたくさんのアイデアがあり、自分自身では思いつかなかったような提案があり驚きました。食で人々がつながることで良いコミュニケーションが形成され、地域の安全や防災にもつながっていくと感じました。

様々な年代の方とお話をさせていただき、普段聞くことができないようなお話を聞くことができ、良かったと思います。かしいかえんの未来について、これからも考えていきたいです。（女性・高校生）

今まで高校の中でしか考えることができいていませんでしたが、年齢を超えて地域の人たちや、その地域に住んでいない人たちともたくさん意見を出し合い、共有できてとても楽しかったです。「コミュニティガーデン」については初めて知り、とても興味があるので、周りに共有したり自分でももっと調べたりして理解を深めていきたいです。香椎「花園」なので、跡地を環境にしっかり配慮した利用にしてほしいと思います。（男性・高校生）

実際に参加してみて、香住丘という地域についてより知ることができました。また、様々な世代の方の意見を聞き、自分にはなかった視点に気づくことができました。土地のことだけでなく、周りのことや地域の現状も考えながら土地を活用できたらいいなと思いました。（高校生）

今回参加したことで、跡地に学校を移転することを考えているのだと初めて知りました。私は将来、跡地に地域の人が集まれて楽しめる、顔見知りも増えて、そこに行けば誰かに会えてお話できるような環境ができたらいいなと思っています。でも一番は地域の人願っていることが叶ったらいいなと思いました。（女性・高校生）

今まで高校に通う中で気になっていたかしいかえん跡地について、たくさんの方と交流でき、様々な意見に触れることができました。このように地域で交流ができる場は、もっとあったほうがよいのではと思いました。跡地を利用して多くの人が交流できたり楽しめる場にしたいです。（高校生）

今回初めて参加して、かしいかえん跡地をどのようなものにするかを様々な視点から考えると、たくさん案が出てきました。やっぱり香椎花園があったときは子どもや地域の賑わいが目に見えて嬉しかったので、何か賑わいがまた生まれたら嬉しいなと思いました。今では歴史を知らない人も多いと思うので、跡地で何かつくったときに、かしいかえんの歴史が伝わるような掲示板などがあれば良いと思いました。（高校生）

いろいろなお話を聞いて、かしいかえんがグリーンのある幅広い人が関われる集まれる場所になったらいいなと感じました。香住丘の未来を想像したらワクワク

ワクしてきました。貴重なお話や年齢層の広い人とのお話を聞けて学びになりました。ありがとうございました。（女性・高校生）

今、この公民館で話し合っている未来の話は、今日来ていない高校生は知らないことなので、私たちの高校の隣ではこんな未来の話をしているんだよということを知ってほしい。また、跡地も同様に、こんなコミュニティが展開されているんだということが周りにも伝わる開放的な場所となり、より新しい人とのつながりを増やせる場所になるといいなと思いました。（高校生）

実際に跡地利用を運営されている方のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。いろいろな人のお話を聞いて、やっぱり地域のつながりをつくることのできる場所があるということは大切だなと思い、様々な人が気軽に集える場が増えていったらいいなと思いました。（女性・高校生）

地域を地域の人たちとつくるということが実感でき、とても勉強になりました。様々な方の香住ヶ丘という地域に対する思いを聞き、いい時間になりました。かしかえんが地域の輪の中心にあるということですね。今さらながら、かしかえんの偉大さを知りました。皆さんの香住ヶ丘という地域に対する思い、熱量が印象深かったです。（40代）

かしかえんの跡地のルーツは、みんなが集い楽しめる場所、花や木々がたくさんあった場所。それをそのまま大切にしたい。子どものための学校プラスαとして、みんなが集える場所、広場やグラウンド、菜園など様々な活用ができ、1人でも多くの人々が笑顔になれる場所になってほしいと思いました。（女性・40代）

前回に続き2回目の参加でした。皆さんのかしかえん愛がすごい。私も含め、ここがみんなの思い出の詰まった場所なんだと実感します。本当にここがみんなの集える笑顔のたくさんある癒しになるような場所であってほしいと思います。スピーカーのお二人のお話は共通することが多く、自分の価値観にもマッチするもので、こんな街になったら素敵だなと、こんな街になるよう自分もできることをやっ払いこうと改めて思いました。ありがとうございました。この場であることに感謝です。（女性・40代）

幅広い年代の方々に有益なスペースを一部確保してほしい。様々な年代の方々がいろいろな思いをもって参加されていて、とても勉強になりました。思いはそれぞれですが、地域の人々が末永く楽しめる空間を一部でもいいから作って

ほしいという気持ちは共通だったと思います。カフェやレストラン付き、映画館ができたらいいなと個人的には思います。ありがとうございました。（女性・60代）

香椎花園跡地の新しいまちには、地域の人たちが集える場所を確保してもらいたい。新しい住人だけでなく、古くから住んでいる人や域外からも老若男女が楽しめ、毎日の生活をリセットできる場所になってもらいたい。コミュニケーション、グラウンドゴルフ、ドッグラン、テニス、かけっこなど。（60代）

皆さんと同じような考えでした。子どもから老人まで集えるような場所にしてほしい。小・中学校をつくって、後に生徒数が少なくなっても空き教室を地域の人たちが活用できる場所にしてほしい。コンポストは大変参考になりました。（70代以上）

香椎花園の名前はぜひ残してほしい。人が集まる場所だと西鉄にとっても集客になる（スポーツ施設、公園など）。子どもから大人まで集えるかしいかえんにしてほしい。（70代以上）

地域みんなの集いの場所がほしい。公園や図書館、香椎花園の名が残るような花のガーデンがほしい。コンポストを利用して。（女性・70代以上）

#### 4. 教育・学校機能への意見

高校生がたくさん参加してくれたので、いろいろ話を聞いて良かったです。地域で協力し合うこと、みんなにとって良い場所になるといいなと思いました。「寄り道したくなる場所」、笑顔が増えるといいなと思います。（50代）

学校や図書館やグラウンドで地域の人々をつなげる。公園もよいが、ただの公園では人は集まらない。人を定期的集めるスポーツで活気を。知人口を増やす活動ができる場を。（40代）

香椎花園という元々の地域にとっての存在を考えると、跡地は地域に住む人々と、そこで働いたり学びに集まる人々とのつながりを育むことができる場所であってほしいと思います。箱崎の九大跡地の話もありましたが、全ての取り組みが成功するとは思いませんが、多くのことにチャレンジし、地域の人々が関わっていけば、何か大きな花を咲かせるものになればと思いました。（男性・50代）

高校生と大学生がたくさん参加してくれたので、意見がますます多様になった印象です。駅と学校の間を歩くだけのつながりから、周りに目を向けるきっかけになったようです。跡地利用の具体的な話し合いにも学生・生徒が参加すると、思いがけないアイデアが出るかもしれません。斉藤さん、たいらさんのお話には共通点がありました。パークナイズ、資源循環などのキーワードは、これからの跡地利用に欠かせないと思いました。（男性・50代）

小中高一貫校にしてはどうか。周りにコンポストをつくるのもいいのではないか。（女性・70代以上）

学校を増やしてほしい（小学校）。スーパーを増やしてほしい。公園をつくり、運動場もほしい。総合病院もほしいけれどサイレンがうるさいのではないか。5年後、高校はオンラインになる予定です。（男性・70代以上）

## 5. 自然・資源・将来視点

開発・資源…気になることとして自然がたくさん残るように希望します。人口減を考えると、後の仕様がうまく続くような場所であってほしいです。（女性・70代以上）

斉藤さんが話されたパークナイズという言葉が印象に残りました。住宅地や学校等に囲まれ、海に面したこの土地を、未来を見据えた観点から100年先を考えて活用策を企画してほしいと思いました。（男性・70代以上）

## 6. 防災・生活課題

香住ヶ丘は教育者の方が多く、いろいろな面ですぐれていると思っていましたが、今は高齢者が多くなり、コミュニケーションが取りにくくなってきています。できるだけ多くの方と顔を合わせ、楽しみたいと思って参加しました。（70代以上）

未来につなぐワークショップの取り組みが大変良かったと思いました。（70代以上）

民間の所有地であるので難しいなと思うことがいっぱいです。最低限、こういう開発（学校用地）をとというのが精一杯ではと思われました。（70代以上）

かしいかえんを囲んでいる香住ヶ丘6丁目1区、2区、3区、4区、5区、1丁目、3丁目1・2区。災害が発生したときの避難場所がない。山から下りてきてすぐの高塚神社横、香椎球場横を非常避難場所にしてほしい。(70代以上)

以上

## ① テーマ別にまとめた整理（内容分析）

第2回ワークショップで寄せられた48名分の意見は、大きく8つのテーマに整理できる。それぞれは独立しているようであり、相互に関係しながら地域の未来像を形づくっている。

### 1. 三者共創と意思決定の構造への関心

今回の特徴としてまず挙げられるのは、「誰がこのまちをつくるのか」という問いへの明確な関心である。住民・自治体・西鉄という三者が共創して生まれるまちであってほしいという意見や、行政と企業と対等に話ができるコミュニティの必要性、さらにはまちづくり協議会の設置といった具体的な提案が見られた。これは単なる施設要望ではなく、意思決定の仕組みそのものを問う視点である。第1回が「何をつくるか」に焦点があったとすれば、第2回では「どう決めるか」「誰が関わるか」という構造レベルに議論が進んでいる。

### 2. 「循環」という思想の共有と深化

第2回を象徴するキーワードは「循環」である。コンポストやCommunity Gardenといった具体的取り組みを通して、資源の循環だけでなく、人の循環、記憶の循環、土地の循環という広がりを持った概念として語られている点が印象的である。循環は単なる環境配慮ではなく、地域を持続可能にする思想として受け止められている。特に「循環の仕組みを具体化できないか」という意見に見られるように、理念を制度や空間設計に落とし込もうとする段階に入りつつあることが読み取れる。

### 3. 多世代が自然に交わる「集える場所」への強い合意

世代を問わず共通していたのは、「集える場所」にしたいという願いである。公園やグラウンド、カフェや映画館、菜園やスポーツ施設など提案は多様であるが、その根底にあるのは施設そのものではなく、人と人が出会い、関係が生まれる空間を求める気持ちである。「寄り道したくなる」「顔見知りが増える」「笑顔があふれる」といった表現からは、機能よりも関係性を重視する姿勢が明確に見て取れる。このテーマは全世代に共通する、最も広範な合意点である。

### 4. 教育機能を核とした長期的公共設計

小中高一貫校の提案や、将来的な福祉施設への転用可能性、生徒数増加への対応、オンライン教育への懸念など、教育に関する意見は具体性と将来視点の両方を備えている。学校を単なる校舎としてではなく、将来の人口変動にも対応できる公共資産として捉える視点が見られる。教育施設を地域拠点として再定義しようとする意識は、第2回においてより明確になった特徴の一つである。

## 5. 歴史と名称の継承を地域資産として考える視点

「かしいかえん」という名称を残してほしいという声は引き続き多いが、第2回ではさらに一歩進み、歴史を伝える掲示板の設置や、50年後も語られる存在であってほしいという意見が見られた。これは単なるノスタルジーではなく、名称や記憶を地域の象徴的資産として扱おうとする姿勢である。歴史を未来に接続する仕組みをどう設計するかという問いが浮かび上がっている。

## 6. 自然との共生と100年視点の土地利用

自然をできるだけ残してほしいという意見に加え、「100年先を見据える」「海に面した特性を生かす」「パークナイズ」といった長期的視点が語られたことも特徴的である。単なる緑地確保ではなく、時間軸を拡張したまちづくりの視点が共有され始めている。開発を短期的利益ではなく、世代を超えた価値として設計しようとする姿勢が見て取れる。

## 7. 防災・高齢化・生活課題への現実的視点

避難場所の不足や高齢化の進行、民間所有地という制約、商業施設や交通への懸念など、生活に直結する具体的課題も多く挙げられた。理想を語るだけではなく、日々の暮らしの延長線上で跡地利用を考えている点が重要である。夢と現実を同時に見据える姿勢が、地域の成熟度を示している。

## 8. 対話そのものが生み出す価値の発見

多くの参加者が、世代を超えて話せたこと、新しい出会いがあったこと、楽しい時間だったことに言及している。これは跡地のアイデア以上に、「語り合う場そのもの」が価値を持ち始めていることを意味する。ワークショップは単なる意見収集の場ではなく、地域が自ら未来を語る文化を育てる装置として機能している。

以上